



「山口県では安倍さんはお殿様」 = 梅ヶ丘駅前署名宣伝行動 =

梅まつりが始まった2月9日(日)梅ヶ丘駅前「安倍9条改憲NO! 改憲発議に反対する全国緊急署名」を11名で行った。開始直後にバイクで通りがかった男性が署名。「安倍首相には頭にきている」「日本人は平和ボケしている」

元自衛隊員で集団に馴染まないで依頼退職した80代の男性は「ピラをもらうのもまずいので」と。「私は推進派です」と声をあげて言った30代の男性。

東京に本社があり山口支社に勤務していた84歳の男性は「山口県出身者でないと出世できない。安倍一族が支配している。安倍さんはお殿様。反対したら生きていけない」と。母親が署名し子どもにも勧めて署名。のぼり旗を降ろし終わりにしようとした時、外人の4人が駆けつけて署名。バス待ちの人から「竹島の問題はどうなの」と質問されたり、「寒い中ご苦労様です」と声をかけられるなど色んな声が聞かれ署名48名でした。(代田5丁目・小澤 清子)

新型コロナウイルスをめぐって

昨年12月に中国・武漢で発生した新型コロナウイルスは、発生以後、約3か月で世界中に広がり、10万人ほどの感染者が確認されています。日本でも感染者が約1000人、死亡者も出ています。

* ウィルスの危険性

このウィルスは、今や人から人へ感染することが明らかになってきました。最近の情報では、大勢の人のいる所には近づかない、換気の悪いところは避ける、といった注意が出されています。特に高齢者や持病のある人は症状が重くなる可能性があると言われていいますので、不要・不急の外出は避けた方が良いでしょう。

* 政府の動きにも注意

ここまで広がってくると、政府としての対応が求められます。科学的・医学的な知見に基づいて、必要にして十分な対策が必要だと思います。「一斉休校の指示」だけして、関連する対応をおろそかなままにしてしまうような首相の思い付きだけで突っ走られては困ります。しっかりと予算措置を講じて国民が暮らしで困らないようにしていくべきだと思います。また、この事態を利用して首相の権限を増大させるような法律を、どさくさに紛れて作らせるようなことがないように監視していくことも必要になっているように思います。

* これから?

この先の状況の変化については、専門家といわれている人たちにもよくわかっていないように思えます。しっかりと予防をしていくことが大事だと思います。(代田2丁目・伊東 宏)

集 会 等 の 紹 介

5月3日(日) 11:00~

許すな! 安倍改憲発議 2020 平和といのちと人権を! 5.3 憲法集会

会場: 有明防災公園 (東京臨海広域防災公園)

主催: 平和といのちと人権を! 5.3 憲法集会実行委員会

共催: 戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会

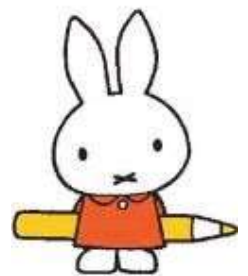
安倍9条改憲NO! 全国市民アクション

5月16日(土) 午後1:30~ 「憲法記念日によせて」のつどい (計画中)

お話: 「へいわってどんなこと」(仮題)

浜田 桂子さん (絵本作家)

会場: 代田教会 (代田2丁目)



~ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ~

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

東京都硫黄島戦没者追悼式に 参加して

硫黄島は東京都小笠原諸島に属する面積22km²の活火山の島です。

私の父は、昭和19年6月初めに召集され短期訓練を受けたのち硫黄島に送られ翌年の3月17日に34歳の若さで戦死致しました。

今年の1月16日に東京都主催の追悼式に参加させて頂きました。

羽田空港から約2時間で基地に着きました。遺族・一般と医師・看護師と都職員等4台のバスに分乗して、鎮魂の丘で副知事や遺族代表の追悼の言葉・・・献花と約1時間の式典後、島内を巡拝・・・説明を受けながら途中3ヶ所の献花を致しました。米軍が上陸した激戦の摺鉢山の頂上には日本の戦没者顕彰碑と米軍戦勝記念碑があり、また近くには生々しく錆びた戦車が傾いたまま残っています。

その丘から見る海は波もなく穏やかで青く美しく、ここで激しい戦いが有ったのはうそのように思われ複雑な思いで海を見ていました。

医務科壕の中に入る事が出来ました。戦中は負傷者を収容して治療をしたと説明をうけましたが、壕に1m入っただけなのに硫黄のにおい地熱の暑さ湿気とで、3分位中に居ると気分が悪くなり引き返しました。

島全体に壕を掘り蟻の巣のような通路で繋がって戦っていたようです。どこを掘っても噴出する硫黄とむせかえる地熱の壕は肉体の限界を超えた戦いの場と感じました。

また、本土からの補給は断たれ、水は天水でしのぎ、兵器の乏しい中で1ヶ月以上の戦いは玉砕を覚悟したと思えました。

狭い22km²の島で戦死した日本軍と米軍の計3万人の犠牲者だけでなく、その親、妻、子達も経済的な苦勞のうえに片親であるための差別を受け、生きて来た部分もあると思います。

父も妻と3人の子供を残しての辛さ悔しさ無念な思いだったと思います。

戦争は何も残りません。人の命を奪うだけでなく心まで奪ってしまいます。

父へ・・・硫黄島を視させて頂きましたが過酷で悪条件の戦い本当にご苦労様でした。

父が命名してくれた形見の名前『眞理』は大好きです。有難うございました(2020年2月吉日)

(代田1丁目・矢部 眞理)

【補足：硫黄島の戦争について】

硫黄島は、サイパンと東京のちょうど中間地点にあり、第二次大戦では、日米双方にとって、重要な戦略拠点でした。日本軍は、この島に2万1千人の守備隊を配備し多数の防空壕を掘り、壕と壕はトンネルでつながり立ちこもりました。水は天水しかなく、食糧や武器の補給もない上に、地熱と有害な火山ガスで、壕を掘る作業中にも倒れるものが出たといひます。1945年2月19日、米軍約3万人(最終的には20万以上)は激しい艦砲射撃のちこの島への上陸を開始しました。大本営は、すでに2月6日の時点で、補給が困難になった硫黄島を捨て、沖縄と本土を守ることに注力するという方針を決めていました。

凄惨な戦闘の末、3月26日に日本軍の組織的な抵抗は終わったとされていますが、その後も、米軍による掃討作戦は続き、火炎放射器で焼かれ、水攻めにあい、多くの兵隊がなくなりました。生き残ったのは、米軍の捕虜になったり、ゲリラとして戦後まで隠れていた約1000名のみでした。

硫黄島は1968年にアメリカから返還されましたが、全島が自衛隊の基地とされ、一般の人は慰霊祭など特別の機会をとらえない限り行くことができません。それも、硫黄島が、日本人の記憶から薄れてきてしまった原因かもしれません。

(文責：代田2丁目・伊東 光子)



摺鉢山から望んだ海 (太平洋)



戦車の側面はコンクリートで硫黄の腐食を防ぐ対策で戦っていた



医務科壕近くの壕も無数に攻撃を受けた砲弾の跡